

(様式1)

令和6年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立寺島中学校
校長名	田中 茂和

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・国語については、全学年ともに「知識・技能」の観点別平均正答率が目標値に対して「同程度」または「上回っている」の結果であった。・第1学年、第2学年については全教科、目標値、全国、区の平均正答率を「同程度」または「上回っている」の結果であった。・第1学年、第2学年の全教科「基礎・活用」の活用については、全国、区の平均正答率に比べて2～9ポイント上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・第3学年については、全教科の観点別正答率が全国、区の平均に比べて1～7ポイント低い結果であった。特に「主体的に学習に取り組む態度」では、全国、区と比べて4～13ポイント低く、日常の授業の様子などに表れている。課題の改善に向けては、学年として学習姿勢などの指導や支援を行っていく。・第3学年の全教科の観点別平均正答率について令和5年度は、目標値に対して-5ポイントであったが令和6年度は、3～11ポイント低い。特に「知識・技能」での低下が著しいことから、既習事項の再確認を図るとした授業計画の見直しを行っていく。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・リスク管理「いじめのサイン」では、全国値に対し2～3ポイント上回り、経年の結果からも同様の結果であった。このことから学校内外、SNSの環境下で良好な生活が送れていると判断できる。・リスク管理「学級の絆」では、第1学年が全国値から2～5ポイント下回っているが、第2学年、第3学年と学年が上がるにつれて向上している。学校行事等を経て学級の団結力が高まっていることから、行事、学級、学年の運営が順調であると言える。	<ul style="list-style-type: none">・生活・学習習慣「学習意欲」では、第3学年を除き全国値を1ポイント程度上回っているが、学年が上がるにつれて低下している。経年の結果からも同様の傾向がある。また、学級によって2～5ポイントの差が生じていることから、学級単位で家庭学習の方法や、授業中の学習理解の把握などの指導展開が必要と分かった。次年度は、全学年ともに全国値以上と、学級間差2ポイントを目指す。・生活・学習習慣「学習習慣」では、一部の学級を除き全学年とも全国値を1～6ポイント下回り、学級間で最大6ポイントの差がある。学習計画や予習方法、家庭学習の履行状況が実際、学校での学習状況に顕著に出ている。学級、生徒個々の指導支援が必要であり、次年度は全学年とも全国値±1ポイントを目指す。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・漢字コンテストをはじめ 5 教科のコンテストの取り組みでは、表彰を行っていることでどの生徒も関心意欲が高い。小タームの実践が一定の成果に結びついていることから、他場面の教育活動に展開できる。・英語、漢字、数学の各検定では受検者数と合格率が年々高まっている。英語検定に関しては準 2 級以下前年比 60～70%合格者増加から、生徒の資格取得の関心の高さが表れている。	<ul style="list-style-type: none">・家庭学習、問題集、教科による課題の提出では、生徒の意識に高低差があり、中でも提出状況が乏しい生徒については固定化にある。本人への説諭や保護者への連絡、休み時間などでの補習対応を引き続き行い、改善を図っていく。・全学年ともに、家庭学習の課題を配信等にて行っているが、学校の取り組みを保護者に向け周知を図り、家庭からも生徒へ促すように啓発していく必要がある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 授業規律 5 箇条の徹底

- ・全校体制で継続した取り組みとして定着していく。
- ・時間を守り、身なりを整えることで生徒と教員相互で学習に向かう姿勢をつくる。
- ・定期的に点検期間を設け、数値化してフィードバックしていく。

(2) 基礎学力や学習習慣の定着を目指した取り組み

- ・教科担当と学年担当が連携し、学習状況や管理などの運営を行う。
- ・家庭と連携し、学習習慣の定着を促すために、配信システムなどを活用して家庭へ周知する。
- ・時期や授業進度等を考慮し、教科、課題量、難度に変化をもたせて取り組ませる。
- ・朝学習・家庭学習、教科コンテストを行い、成果に応じて表彰をするなどして実感させる。
- ・授業や定期考査に、ミライシートや振り返りシートからの発展問題を取り入れ、家庭学習の定着と、取り組んだことでの効果を正当に評価し数値化してフィードバックしていく。
- ・学力調査や定期考査などの結果より、下位生徒を対象とした夏季補習教室を実施し、基礎学力の習得を図る。

(3) 定期考査に向けた全校での取り組み

① 学習計画表の作成と振り返り

- ・3 週間前に考査範囲表を配付し、心構えと計画的な学習を行えるようにする。
- ・学習計画表を活用し、視覚的に学習の進捗を把握できるようにする。
- ・1 週間ごとに振り返りを行い、直近の進捗状況を確認させる。

② 放課後一斉学習会（年 4 回）

- ・定期考査に向けた意識付けや、学習における疑問の解消を目的とする。
- ・主体的な学習態度を身につけるため、質問がある生徒が参加する形式とする。今年度は、教員からの呼びかけや保護者への周知を行い、従前以上の参加者数と個別対応を行う。なお、1 年生については定期考査への不安解消の機会も含めて学習支援を行う。

3 「令和7年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・学年が上がるにつれてA・B層が微減しているが次年度は、全教科とも前年比±5%に収める。
(例：国語 令和6年度_2学年 59.0 → 令和7年度_3学年 62.0～56.1を目指す)
- ・D・E層も学年が上がるにつれて増加し、A・B層とD・E層の数値が拮抗する状況にある。
D・E層では全教科とも前年比+22%に収める。
(例：国語 令和6年度_2学年 32.0 → 令和7年度_3学年 39.0以内にとどめる)
- ・英語におけるA・B層の下落率が高いため、令和7年度のA・Bの割合を43%以上になるよう目指す。また、D・E層が増加しているため、令和7年度のD・Eの割合45%以下を目指す。
- ・全学年・全教科において、観点別正答率の評価が目標値に対して「上回っている」または「同程度」になるよう目指す。
- ・目標値を目指すために、各教科が結果分析を行い、学習計画や指導方法の見直しを図っていく。